

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 保育課
団体名	こどもの根っこを育てる会

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	保育園年長児への環境教育「森のムッレ教室」	
協働事業の概要	<p>○森のムッレ教室の開催（平成26年9月18日～12月16日） 4つの保育園（小室保育園、名細保育園、高階第三保育園、神明町保育園）の年長児を対象に、各園3回ずつ森のムッレ教室を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1回目の教室テーマ「土に戻るゴミ、戻らないゴミ」 自然遊びのマナーを身につけ、土に戻るための虫の役割や物質循環について学ぶ ●2回目の教室テーマ「生態系ピラミッド」 虫探し・葉っぱ拾いをしながら生態系ピラミッドを作り、自然は共生していることを学ぶ ●3回目の教室テーマ「葉っぱ観察、木の顔探し」 ルーペで冬芽や葉の観察をし、観察の楽しさを体感。 <p>また各園年中組に対しては、秋の保護者会に、親子参加の体験ムッレ教室を実施。親子でルーペ観察したり、自然の借り物ゲームや秘密の袋ゲームをして、自然物を扱った五感を刺激するゲームを中心に自然体験をした。</p>	
協働事業の決算額	30,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年9月18日 ～ 平成26年12月16日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35点
------	-----



○「森のムッシ教室」
の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

・26年度は4歳児、5歳児担当保育士に環境教育実践のための研修をして頂きました。日常の保育の中に環境に対する意識が溶け込めば、非常に高い事業効果が得られると思います。

【市民活動団体等】

本事業を行うことができ、大変感謝しております。

子供たちは、毎回教室をやるたびに、「今日は虫探し？虫見つけるの？」と聞いてきては、虫遊びを楽しみにしている様子が見られました。出来るだけ虫遊び、虫探しをやらせてあげたいという気持ちがあるのですが、本事業のスケジュールは、4月～7月が応募・プレゼン・事業採択で、実際に移動できるのが8月以降です。なお、雨や雪でも、場所を公園ではなく園舎と園庭に変えて行うことで、より身近に自然を感じる機会にもなることに気づきました。

協働事業によって、本団体の活動はより多くの方々に認知されるきっかけとなり、理解も広がったと考えておりますが、子供たちももっと楽しく自然の中で触れあう機会をつくり、より教材（虫や花）が多い春～初夏にかけても本活動ができるようなスケジュールになることを希望しております。

なお、協働事業によって活動したことで、保育課全体でも本活動を認知していただけるようになりまして、本事業とは別に、今年度は4歳児、5歳児の保育士向けに各2回ずつ環境教育実践のための研修もやらせていただきました。20園すべての保育園に本団体がムッシ教室を行うのは難しいため、保育士自身が環境教育を実践できるようにし、本団体は全体コーディネーターやゲストティーチャーとして協働するというスタイルが継続可能な活動形態ではないかと思うようになっております。

また協働事業担当職員や選考委員の方々も、見学に来ていただきましたこと、本活動を認知・理解いただいたことに対し大変感謝しております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	10名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	0名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・自然環境が各地で危機に直面している中、本事業は極めて有意義なものです。事業を実際に見たところ、教室に参加する年長児たちも大変活発に動いており、事業の効果は年長児に深く浸透しています。市へのお願いにはなりますが、来年度は、事業の採択の決定を今年度より早めるか、本事業の協働委託事業への組替えを検討してはどうかと思います。
- ・人間形成の大切な時期に、自然にふれ、体験できることは素晴らしいです。虫を好きになり道端に咲く花がきれいといえる子どもに育っていくと思います。今後も頑張ってください。
- ・内容も充実しており、アンケートの結果からも効果が感じられました。春～夏にかけて、動植物の活動が活発になる時期に事業が行えないのは、確かに残念です。
- ・自然の残る川越だから出来ることであり、もっと広げられることを望みます。このような事業には行政のさらなる予算化が必要であると思います。
- ・願わくば、より多くの幼児がこのような機会に触れることができるように、保育士や幼稚園教諭を対象に今後も活動を続けて欲しく、応援したいと思います。
- ・幼児に対する環境教育は大変重要と考えます。自然と親しむ機会作りは、できれば保護者と一緒に行うともっと効果は大きいと思います。感想の中に、「保育士自身が環境教育を実践できるようにし、本団体は全体コーディネーターやゲストティーチャーとして協働」とありますが、保育課と連携を取りながら事業行ってほしいと思います。
- ・衛生面については何も語られていないが、手洗い等についてどのように行っているか、アレルギーなどについてはどう考えているのか。また、公園などに捨ててあるごみ問題についての教育も外せないのではないか。この事業などのように実施時期が4～5月が適切であったり、開始時期が春になるようなものもあるので、募集時期を年2回にするなどの行政側の課題もあるのではないかと。
- ・提案型協働事業の対象となる3年間の最終年でありましたが、本事業は子どもたちの育成にとって大切なものであり、活動場所を園舎か園庭などの身近なところにして、今後も活動を続けてほしいです。
- ・保育士等に対する研修は、有用であると思います。研修の成果を職場等でどのように活用したかを、知れるような情報発信があれば尚よいと思います。

協働事業評価シート

記入団体名（部課名）	保健医療部 健康づくり支援課
記入者（職名及び氏名）	NPO法人川越子育てネットワーク

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	プレママつながり事業	
協働事業の概要	<p>1) プレママ（妊婦）と地域をつなぐ講座などの企画・運営</p> <p>① プレママ同士のつながり作り（プレママサロンや講座等）</p> <p>② プレママと産後数ヶ月のママのつながり作り（交流会や講座等）</p> <p>まずは「参加してみたい」と思える魅力ある講座の企画を立案。そこに参加することで地域への関心や気づきが得られる仕掛けを作る。</p> <p>2) 情報発信</p> <p>紙媒体と平行してブログ・ツイッター・HPなども活用し、プレママに情報を届ける有効な方法を模索する。</p> <p>3) 地域企業・商店などへの告知協力のよびかけ</p> <p>川越は地域全体で出産・子育てを応援するという風土を作っていく。</p> <p>4) 今どきのプレママ事情の調査・分析</p> <p>アンケートやヒアリング等を実施し、今後の「つながり作り」につなげる。</p>	
協働事業の決算額	53,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年 6月30日 ~ 平成27年 3月 1日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



平成26年9月7日
 (日)
 北部地域ふれあいセンターにおいて
 マタニティヨガの風景

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回、協働事業として実施することで、団体も自主事業の内容を見直すことにもなり、とてもよい内容になっていったと思われます。市では、実施できない部分を市民活動団体が実施することで、産前から産後へとつながる支援ができたと思います。市民活動団体にご協力いただきながら、今後も市民の方が、積極的に子育てに取り組めるような意識づけをしていく必要があると思います。

【市民活動団体等】

前年度までは当団体の自主事業として行っていたが、なかなか参加者人数が増えず、告知に苦労していた。しかし、協働事業として開催できたことで、信頼度の向上や広く告知が出来るようになり、参加人数が格段に増えた。アンケート結果からも健康づくり支援課の協力のもと配布したチラシや広報を見て参加した方が多く、行政の持つ特性が活かされていることもわかった。特に子どもが産まれるまでは地域に目を向ける意識が乏しい妊婦への告知は当団体だけでは出来ないことだった。

今後は今回、告知協力をしてくれた企業さんに加え、新たな告知協力先を増やしていきたい。そのことは地域全体で出産・子育てを応援するという風土を作っていくことにもつながる。

内容については、プレママだけを対象とせず、プレパパも一緒に参加できる内容に工夫した点は、夫婦で地域で子育てをしていくという意識付けになり、夫婦の絆づくりにもなると感じる。また、今回参加してくれたプレパパ・ママを次年度の先輩パパ・ママとして協力してもらえよう、声をかけていきたい。そして、プレパパ・ママと産後数ヶ月のママパパのつながり作りを活性化していきたい。先の見えない出産・子育ての不安を解消することは、ストレスを減らし、これから赤ちゃんを迎えるプレパパ・ママにに欠かせないものである。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	8名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	1名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

- ・ 出産や子育てに不安をかかえているプレママやパパが多い中、それらの不安を少しでも解消しようとして行われる本事業は有意義です。
- ・ 団体の自主事業の時に比べ、協働事業として大きな成果を上げていると考えます。
- ・ 実際に参加された者の中に、ママのみならずパパもいたのは素晴らしいことです。
- ・ アンケートの結果を見るとプレパパの方が、人との交流を望んでいたことがわかります。男性が参加しやすい時間帯、場所などを考慮して続けて行くことで更なる成果も期待できます。
- ・ 女性は出産に対し不安も多く、相談する場と産前から産後へとつながる支援が出来ることはすばらしいと思います。
- ・ 必要な人に情報を提供できるかがカギとなると思います
- ・ このような事業は大切であり、周知の方法などを工夫しながら参加者が増えて欲しいと思います。川越は安心して出産、育児ができることを他市にPRできれば、若年層が増加し、活性化の一つの要因になります。

協働事業評価シート

部課名	福祉部 高齢者いきがい課
記入団体名	かすみ野たすけあいの会

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	地域の仲間づくり・たすけあい活動		
協働事業の概要	①ふれあいサロンの実施～毎月1回60～70名参加。 ②秋のバスハイク・10月27日、小諸軽井沢、68名（要介護者46名スタッフ22名、1対2介護体制、車いす6台） ③オレンジカフェ開催、毎月第2木曜、認知症家族、高齢単身者等20名規模。 ④健康吹矢クラブ新規開始 月1回例会 20名規模。 ⑤上記の4件に併行して、高齢者の登録制24時間見守り助け合い支援の実施。		
協働事業の決算額	155,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年7月1日 ～ 平成27年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	3	4	3.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	3	4	3.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	28 点
------	------



○オレンジカフェの
実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業のみならず、活動を通じてかすみ野の地域の課題をとらえ、今年度から地域包括支援センターとかすみ野の住民（自治会、民生委員、かすみ野たすけあいの会）との地域の課題を検討する会議を発足するまでに発展した。

今後は、その会議を通して、行政のみでは把握できない地域の課題を地域包括支援センターと「かすみ野たすけあいの会」が共有し、課題解決に向け取り組むモデルの構築につながることを期待される。

また、課題解決において公的サービスと「かすみ野たすけあいの会」等の住民主体のサービスとの役割分担や機能を検討することにより、市民ニーズにあった高齢者の住みよいまちづくりにつながると考える。

【市民活動団体等】

①バスハイクは、高齢者、認知障害者、歩行困難者など多様な対象で、危険との隣り合わせの事業ですが、「今年もお花見ができた」「これが最後の旅行だ」とお世辞でもうれしいお言葉があり、お互いの喜びの共有が出来る効果の大きい行事です。（参加者のうち既に1名が亡くなりました。）助成金が無くとも行政バスなどを活用するなど、いろいろ工夫して継続したいものです。

②4月から始めたオレンジカフェ常連の方も既に3名他界しています。振り向けば、かすみ野は団地中がみんな高齢者が歩く街になってきました。川越も今から各町内（自治会）に1個所のカフェを作りましょう。カフェを見守りの拠点施設にしたいものです。市はその教育宣伝と、市民の共助活動の指導支援を更に進めるべきだと感じております。

③3年間お世話になりました。協働事業補助金は、市民のボランティア活動に刺激的・効果的な制度です。少額でも、経年継続して支援する制度も作っていただき、市内の多くの地域で活動が進むようになることを期待しています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	3名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・今後、本事業を参考又はさきがけとして、同種事業をかすみ野地区と同じような環境にある地域に広げていったらどうでしょうか。
- ・市内各所に” あれば良いな ”と思うが、なかなか出来ない事業だと思います。行政が働きかけて市内各地に「たすけあい」の場を作り、定着させて行くために、この事業を一つのモデルケースとして、検討してみる必要があると思います。
- ・住みなれた地域でいつまでも元気で暮らし続けられることが理想ですが、地域の課題を支援センターと共有し、取り組んでいращやることについて、がんばってほしいと思います。
- ・感想にもあるように、行政バス等を利用し、今後とも活動を続けてくださることを期待しています。
- ・地域での仲間づくりや助け合いの活動は、とても良いことだと思います。会員も増えており、需要も高まっているので今後も活発に活動を続けて欲しいと思いました。ただ、かすみ野に集中している点が、協働事業として適しているのか少し疑問が残ります。川越市全域に向けた内容が、組み込まれていると良かったと思います。
- ・ひとり暮らし、とじこもりの高齢者の多くはさびしい思いをしています。皆様の力で声かけをして、オレンジカフェにひとりでも多くの方が参加できるよう活動していただきたいと思います。
- ・このような事業は、どの地域でも多寡に関わらず、行っているか行いたいと思っています。しかしながら地域の一つの団体が携わっていることは、あまりないのではないのでしょうか。他地域で行っている団体等とも情報交換などをしながら、一つのモデルとなることを期待したいです。
- ・ふれあいサロン、オレンジカフェ、バスハイク、お花見などは三世代交流を織り交ぜながら行うことも重要と考えます。たすけあい活動（有償支援）は、ご近所では無償では頼みづらいことをいわゆる有償ボランティアとして行っていることは、とてもよいかと思います。今後のこのような活動は地域内の老老介護に移っていくことになると思います。防災無線を使った迷い人の放送は毎年増加しておりますが、地域の目が支援活動につながるので今後も是非継続をお願いします。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 農政課
記入団体名	福原ファームクラブ

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
--

協働事業名称	自然にやさしい福田田んぼ活動		
協働事業の概要	<p>日本人の「食」を支える「田んぼ」に関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする事業。 福田地区において、「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。</p> <p>○9月20日（土） 田んぼオリエンテーリング、観察会【一般参加者12名】 ○9月28日（日） 稲刈り、観察会【一般参加者19名、団体会員参加者41名】 ○10月5日（日） レンゲ種蒔き（※雨天により中止） ○12月20日（土） 餅つき、参加者交流【一般参加者15名、団体会員参加者16名】</p>		
協働事業の決算額	50,000 円	※委託額及び補助金額を記載	
事業の実施期間	平成26年 9月 20日 ~ 平成26年 12月 20日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	33.5点
------	-------



○「田んぼ活動」稲刈りの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

田んぼのスケジュール（田植えから稲刈りまで）と協働事業の事業年度の相違から農作業体験としては、稲刈りが中心となってしまいます。農業に関心を持っていただくきっかけづくりとしては稲刈りだけでもよいが、やはり一年を通じて田んぼに関わっていただくことが、田んぼの役割や重要性への理解に繋がると思います。福原ファームクラブは、年間を通じて田んぼに携わる活動をしているようですので、今回の参加者が新たな参加者を呼び、活動の輪が広がっていくことを期待します。

【市民活動団体等】

委託事業の流れが9月以降の事業に偏ることを承知で提案しています。今回視察に来ていただけた事で部分的な企画ではあるけれど、「耕作放棄地」問題や「食の安全」「子ども達の実体験」「親子のふれあい」など多くの課題に寄与出来る事業と理解していただけたのではと思っています。
多少の企画変更はありますが来年も続けて行きます。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	5名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	4名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

・瑞穂の国である我が国で「田んぼ」の機能が自然保護の観点から見直しされている中、本事業の目的趣旨は素晴らしいと思います。また、活動も効果を上げています。大きな課題は、できる限り多くの子どもたちや一般の人に「田んぼ」について理解、参加してもらうことですので、本事業のPRをどのようにしたら良いかということであろうと思います。

・せっかくの農作業体験ですので、田植えから稲刈りまで経験出来れば、よりよい体験になるのではないのでしょうか。

・親子で参加できることによる相乗効果があると思いました。また、田んぼ作業だけでなく、魚を取ったり、カエルや虫の説明も含め、生き物の生態を知る機会となった点も良かったと思います。

・雨などで開催が難しくなった場合の代替案を考えておくと、良いかもしれません。

・興味深い活動だと思いますが、参加者が少なかったように感じます。例えば、小学生を参加させるなどの施策が必要ではないのでしょうか。

・四季を通して、魅力的な計画をたてていると思います。「核になる子供集団」とは別の子どもたちも参加できるように、もっと活動をアピールして下さればと感じました。

・稲刈りの体験を出来る事は、私達が食べている米を作って下さる農家の方の苦労もわかり、とても良い経験だったと思います。

・このような事業は1年を通しての一貫性があるので、行政側も考慮する必要があります。農業に対する理解と食育の面からも当事業はとても有意義だと思います。ですが、この様ないわゆる農業体験は様々なところで行っていますので、他団体との連携が出来れば尚よいと思います。

・行政の感想にあるように1つの作物ができるまでの流れを知り、体験できるような事業を考えてほしいと思います。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 美術館	平成26年度
団体名	川越美術協会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越百景絵画展児童・生徒の部第1回展	
協働事業の概要	<p>川越市内在住、在学の小・中学生を対象にして、平成24年に川越市都市景観課が選定した川越百景をモチーフとした平面作品を公募し、審査のうえ、入選・入賞作品200点を川越市立美術館に公開展示した。</p> <p>●公募【平成26年7月～11月30日】</p> <p>●入選・入賞作品の展示【平成26年12月17日～24日】</p> <p>●川越百景絵画展作品集の制作【平成27年1月】</p>	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年7月1日 ～ 平成27年1月31日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32.5点
------	-------



○「川越百景絵画展」の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

郷土川越を題材にした児童生徒の展示会は、教育委員会等の主催で既にいくつか実施されており、応募する側の児童生徒や学校に負担をかけたり、他の展示会に影響を及ぼした面があった。また、初めての事業を行う中で、予測できなかった不備、事務作業上の誤りがあった。次年度の開催にあたってはこれらの課題をふまえ、十分な話し合いと準備を行い、改善していきたい。

【市民活動団体等】

初期の目的はほぼ達成できた。出品参加校が増えると望ましい。美術館の積極的な協働姿勢に感謝している。印刷機などの不備を改善されたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	0名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	10名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・応募数311点と高い成果を上げるとともに、出品作品の中に相当水準の高いものが見受けられました。本事業を通じ小学生に郷土川越への愛郷心を育むきっかけとなったと思います。
- ・本事業と同種類に事業が行われているのであれば、調整する必要があるのではないのでしょうか。
- ・小学生の絵はなかなか楽しいが、作品の説明があるとなお良いと思います。絵の枚数（入選者）を増やしてもよいのではないのでしょうか。
- ・行政と市民活動団体の評価の差が気になります。事業開催にあたっての細かい調整は大変だと思いますが、とりわけ市民団体の思いや目的を共有することが大切だと思います。次年度は課題をなくし、さらに参加校、人数が増えるよう改善していただくと良いと思います。
- ・「百景」と謳いながら同じ題材の作品が多かったので、写生会などを開いてみても良いと思います。
- ・出品された児童、生徒の保護者以外の方たちも、もっと入場して下さるような工夫も必要かと思います。
- ・多くの学校の生徒が参加できるようPRが必要だと思います。今後も子供達の楽しい絵や夢を希望します。
- ・行政の感想の中にも書かれていたが、このような作品展は既に多く在るので、他の展覧会との連携も視野に入れるべきだと思います。市内の高校及び在住の高校生も参加資格に入れてもよいのではないのでしょうか。収支決算の中で、図録の作成費が予算額よりも決算額が多額になっていることをなど、決算が大まか過ぎるので再考をお願いします。

協働事業評価シート

部課名	産業観光部 観光課	平成26年度
団体名	川越唐人揃いパレード実行委員会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	第10回 復活！唐人揃いー朝鮮通信使ー多文化共生・国際交流パレード	
協働事業の概要	江戸時代に氷川祭礼で行われていた朝鮮通信使の仮装行列「唐人揃い」を復活させ、多文化共生・国際交流のパレードを行う。 日時 2014年11月9日(日) 12:00~15:30 場所 蓮馨寺及び連雀町~札の辻(一番街・大正浪漫夢通り) 内容 開会式 パレード(約22団体500名参加) パフォーマンス(一番街の3ヶ所)	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年11月9日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	4	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32.5点
------	-------



○「唐人揃い」パレードの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

前日に行われた「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」と連日のイベントで準備など大変だったと思われるが、お互いが協力しあい、より良い協働関係で事業を進めたことで、無事にイベントを開催することができたと考えている。

【市民活動団体等】

昨年に引き続き協働事業ということで補助金もいただきながら事業を行うことができ大変よかったですと思います。

協働事業ということで、当委員会も主催者としての責任感をこれまで以上に感じましたし、無事成功裏に終えたときは安堵感と満足感で一杯になりました。

今年は10回目という節目にあたり、「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を川越で開催しました。現在、「朝鮮通信使を世界記憶遺産に登録しよう」と日韓共同で活動している重要な時期に、初めて関東で全国交流会が開かれ、「川越唐人揃い」を多くの人たちに知っていただくことができたことは、川越市と当委員会だけでなく、日本と韓国にとっても意義があるものだったと思います。

是非来年も市との協働事業として更に充実したものになればと考えております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	2名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	8名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

・パレードの参加団体22、参加者約500人になる規模の大きな事業であり、見物客も多く非常に盛り上がりました。国際交流として成果を上げた評価します。協働事業としてパレードの外に講演会の開催等を通じて朝鮮通信使の歴史的意義などについて市民に知らせて欲しいと思います。

・良い結果となったことが評価から読み取れました。実際パレードに参加した団体や、一般の方からのアンケートなどは取ったのでしょうか？より良いものにするためには、生の声が聞けるとさらに盛り上がるものになると思います。

・10回を迎え、メッセージ性が確実に増えて来たことは評価できます。それに反し、パレード参加団体があまりにも多様になって来て人数の多々を成功と考えてしまうと、本来の趣旨から外れてしまう危惧も感じています。

・事業の継続が今後の課題となりますので、対策が必要です。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成26年度
記入団体名	川越シニア大学『小江戸塾』	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	川越シニアカレッジ「ふるさと塾」	
協働事業の概要	<p>この講座は、川越に関する著名な先生方を講師に迎え、基礎学習を行い続いて受講生主体のグループ活動を実践するものです。期間・開講時間・会場・受講対象者等は下記の通りです。</p> <p>① 期間・回数：平成26年7月9日～12月10日 12回 ② 開講時間：午前9時30分～午後3時30分 ③ 会場：川越市民会館会議室・やまぶき会館会議室ほか ④ 受講対象者：川越在住（在勤）の55歳以上の方</p>	
協働事業の決算額	145,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成 26年 7月 9日 ～ 平成 26年 12月 10日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



○「喜多院の歴史と文化」勉強会の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

川越シニア大学『小江戸塾』は平成22年度から続いた川越シニアカレッジ「ふるさと塾」（協働事業としては平成24年度・25年度・26年度の3年間）で大勢の若い（60歳代）人材を得て、小学校、公民館等の支援者を確保することができました。「ふるさと塾」の目的である、子どもたちに知識・技術・知恵を伝承する人材育成の事業は、今後も必要ですし、毎年のように補充をしていかなくては高齢集団になってしまいます。

3年という助成年限でしたが、今後、なんらかの形で「ふるさと塾」のような仕組みを川越市の援助の下で実施できることを切に願います。来年度は川越シニア大学『小江戸塾』の自己資金の運用で平成27年度「ふるさと塾」を開講しますが、年間30万円以上の事業は会員200名程度の組織では、1～2年で資金不足になり困難に陥ります。前述しましたが、川越市として将来を見通した取組みに、力を入れてくださるようお願いいたします。

【市民活動団体等】

川越シニアカレッジ「ふるさと塾」は、高齢者の学びと仲間づくり、また子どもたちに知識・技術・知恵などの伝承を支援するボランティアの育成を目的とする講座です。

実施にあたり、シニア大学「小江戸塾」の多くの方が運営委員として担当され、各回の講座ごとに綿密な打ち合わせや反省会を行い、それぞれの役割を確認しながら、グループ学習や市内散策などの時にも、きめ細やかな援助と団体行動ができていました。

運営委員自身も数年前にこの講座を受講された卒業生ということもあり、身近な先輩として受講生と近い目線で援助ができることが、より良い効果をもたらしているのだと思われます。提案型協働事業としたことで、団体と市の双方で役割の確認ができたことで、より良い事業が展開できたものと思われます。

シニア大学「小江戸塾」におかれましては、これまでに培ってきたノウハウを活かしていただき、これからのさらなる活躍を期待しています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・本事業では、活発な基礎学習を行っており好感が持たれますが、基礎学習を受講した者がそこで知り得た知識や技術を基に公民館や学校での体験学習支援活動に実際にどの程度かかわったのかが、不十分で明らかでないのが惜しまれます。
- ・講座アンケートの結果で、理解度・有益度が高い回と低い回がありましたが、低い回については、改善することが必要だと思いました。また、今後、支援活動プログラムをどの様に活かしていくのか、書かれてあると良かったと思います。シニアの皆さんがより元気で、活発な活動を続けられるよう応援しています。
- ・川越について学んだシニア世代の方が、子どもたちに文化を伝えるというプランは素晴らしいと思いますが、その成果が報告書からあまり感じられません。参加した児童の感想などが知りたいです。
- ・リタイアした方たちの、あり余るパワーと知識を活かした活動のモデルケースとして、今後とも活動を継続して欲しい。
- ・川越シニアカレッジ「ふるさと塾」は、高齢者の学びの場、仲間作りの場であり、元気に活動してほしいと思います。
- ・事業目的に、この学習は「生涯学習ボランティアとして、公民館や学校での体験学習・支援活動に関わり、地域の子どもたちに・・・」とありますので、どの程度達成できたのか、経過報告等が必要であると思います。老人会数や加入者の減少にこのような事業と結び付け、総合的に考えていけば、加入促進が図られ、結果的に事業目的にあった講座にもなり得ると思う。
- ・更なる高齢社会を考えると絶対に必要な事業なので、今後の継続への在り方を考える必要があります。

協働事業評価シート

部課名	都市計画部 都市景観課
団体名	アルテクラブ

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
--

協働事業名称	地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化・ミュージアム活性化支援事業		
協働事業の概要	<p>『あるってアート2014 petit ミュージアムロード to 織物市場 & アートクラフト手づくり市 in 織物市場』の開催</p> <p>○実施期日：平成26年11月15日（土）、16日（日）10：00～15：00</p> <p>○実施場所：旧川越織物市場 ○来場者（2日間）約2,500人</p> <p>川越市立美術館創作棟で小学生のワークショップで作成したアートフラッグを、立門前通りの商店の店先に飾り、「ミュージアムロード」として、ふれあいと賑わいを創り出す場所として展開しました。旧川越織物市場では、休憩所と「アートクラフト手づくり市」として、アーティストの作品発表、販売の場とし、旧川越織物市場の実験的な活用提案を行いました。</p>		
協働事業の決算額	198,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成 26年 11月 15日 ～ 平成 26年 11月 16日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	中	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



○旧織物市場での「アートクラフト手作り市」の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

この協働事業は、現在未活用である旧川越織物市場を実験的に活用するという共通認識のもと実施されています。昨年度同様、観光客だけでなく、多くの市民の方にもご来場いただき、旧川越織物市場の存在をより周知することができました。

また、中央通りから旧川越織物市場周辺までの立門前通りが蓮馨寺門前のかつての賑わいを今に伝える街路となっています。

行政担当者としては、昨年度は賑わいが生まれることを感覚として捉えていましたが、今年度は周辺の通行量調査を行い、旧川越織物市場の活用が周辺に与える影響を数値的に測量することで裏付けができ、本事業の実施が互いにとってメリットのあるものになったと感じています。

【市民活動団体等】

都市計画部都市景観課の担当者の方々には、大変お世話になりました。細かい要望にもご対応頂き、出店者・事務局とも大変感謝しています。今回の事業は一昨年、昨年と引き続き、川越市立美術館とも協働し、美術館の市民ボランティアの方々の参加、近隣の大学生たちの参加もあり、活動の広がりがさらに感じられました。アンケートを見ましても、毎年この開催を楽しみにして下さる市民が多くいらっしゃることは、主催する私どもにとって大変嬉しいことです。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	8名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・地域の文化遺産である旧川越織物市場を活かしたまちづくりというアイデアは素晴らしい。また、事業の実施結果も来場者2500人に表れているように成果を上げたと考えます。
- ・旧川越織物市場を活用してアート。川越を多方面からとらえ、観光客と市民が融合しながら楽しめる。そして音楽（ジャズ）をプラスして新しい川越の魅力、新旧文化の香り。是非とも継続して頂き、賑いの創出をしてください。
- ・織物市場の有効利用と言えるのかどうか疑問です。人が来れば良いということではない。イベントはあまりにも混沌としていて、そこで織物市場の歴史を考えることは出来ないし、もっと内容を絞り込んだもので、あの場を利用して欲しいと思います。
- ・何ととっても、来場者も参加者も楽しみにしている方々が多くいらっしゃるのので、今後とも活動を継続して欲しい。
- ・子どもから大人まで幅広い人の参加があり、感想からも皆さん楽しまれていたようで良い事業だと思いました。また協力団体も多く、行政と協働で行った意味も大きいと思います。建物やトイレなどのハード面も今後、解決できると良いと思いました。
- ・今後とも、市民が興味を持ち、参加出来る楽しい企画を続けてほしいと思います。

協働事業評価シート

部課名	教育総務部 文化財保護課	平成26年度
団体名	河越館の会	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	河越氏の活躍とその時代を研修し文化財愛護を広める事業		
協働事業の概要	① ミニシンポジウム「掘り出された板碑と中世の川越」 開催日：平成26年9月28日（日） 実施場所：市立博物館視聴覚ホール 参加者：83名 ② シンポジウム「平泉と中世の川越」 開催日：平成26年2月28日（土） 開催場所：川越西文化会館 参加者：310名		
協働事業の決算額	120,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	5	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32 点
------	------



平成26年2月28日
 (土)
 川越西文化会館
 シンポジウム
 「平泉と中世の川越」

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

前回の共同事業で指摘された問題にも真摯に対応し、また事業の実施もよりスムーズに行うことができたと思われる。行政と市民活動団体双方の長所と短所を確認し、補い合えることが当事業で明らかになったといえよう。今後も協働の機会を設けて、より一層河越館の普及事業を進めていきたい。

【市民活動団体等】

今回のミニシンポジウム、シンポジウムは私たちの学習している歴史・文化財について市民の方々と共有出来るよう、行政の力、財政援助、指導助言をいただいて実施した。特に「河越館跡」は国指定史跡であり、地域の財産である。これを広く知らしめ、大切に活用する事を望んでいる。今回のシンポジウムでは、名細、霞ヶ関地区の人々は地元として、自治会が全面的に協力してくれた。名細、霞ヶ関地区からの参加は100名を超えた。地元の関心を高めたことは大いなる成果であった。また、群馬県、茨城県、千葉県、東京、横浜など広範囲の地域からの参加があった。

今回の事業は歴史と文化財の街である川越の知名度を高めることが出来た。私たちは学ぶことの大切さを大いに実感できた。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	6名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	0名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・川越は古い歴史を持つ場所ですが、その歴史について市民に広くかつ確かに伝わっているかと考えてみますと、必ずしも十分でないと思います。そのような中で川越の歴史を学び、また、その歴史を市民に知らせていこうという本事業の意義は深いと思います。今回、名細・霞ヶ関の地区自治会を巻き込んで事業を実施されたことは、素晴らしいと思います。
- ・河越氏の活躍とその時代を研修、文化財愛護を広める事業は私たちも文化財協会の指導を得ながら、これからも理解を深めたいと思いました。
- ・地元の自治会の協力が得られたことは、素晴らしいと思います。今後も、地元を巻き込んだ活動を続けて欲しいです。
- ・前年度の課題を今年度で見直し、参加者も増えたことが良かったです。その為なのか問い合わせ対応や、事前準備の課題が出たようですがそれも今後活かして、更に良いものにしていただきたいです。また、資金面については、寄付や協働事業以外の助成金なども検討してはどうでしょうか。
- ・シンポジウム「平泉と中世の川越」は興味あるテーマで地元の関心も深く、大勢の方が参加されました。これからも川越の歴史を掘り起こして市民へ伝えてほしいと思います。
- ・シンポジウム内容は非常に興味深いものであり、郷土史に関心のある人には魅力あるものと思います。しかし、一般的に広く浸透するには少し専門的過ぎるかもしれません。
- ・事業実施の参加者の増加を見ると周知されてきたように感じます。また、濃い内容で興味ある方には楽しく参加できたのではないのでしょうか。行政の評価で広報資料の配布状況や開催内容の詳細伝達など、開催にあたっての情報共有の一部が不十分で、市民の問い合わせに対応できない事業が僅かにみられたとありますが、事業内容が専門的な部分もあり、参加者にとって詳細なことも知りたいと思うことは自然であると感じます。今後、このような内容で事業を行う場合には詳細に情報を共有する必要があるように思います。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	エリトア編集部

平成26年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/>	継続 <input type="checkbox"/>
--	-----------------------------

協働事業名称	「美術の街・川越」推進事業		
協働事業の概要	<p>○市内において美術作品の展示活動を行っている個人や団体等の調査 NPO法人コンテンポラリーアートジャパンの協力を得て実施。マップに掲載する展覧会は、実績ある美術家または団体が中心となって行われる展覧会であることを原則とし、実績の評価については、市立美術館学芸員の助言を受けながら判定をおこなった。</p> <p>○芸術の秋に市内で行う展覧会を一覧にし、会場位置を記した地図を併置した印刷物を作成【配布期間：9月から12月】</p> <p>印刷物は、紹介する展覧会の会場、ならびに当団体がこれまで冊子を配架してきた場所に置いたほか、川越美術協会の協力を得てさらに多くの場所で配布した。また県内の美術家、関連施設・団体等に郵送したほか、市の協力を得て公共施設での配架も行った。</p>		
協働事業の決算額	121,000	円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年9月1日～平成26年12月31日		

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5点
------	-------



○アートマップの設置の様子（市内カフェ）

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

市内の美術作品を紹介するような地図は、過去に市が作成していましたが、現在では作成されていません。今回、エリトア編集部からの提案により、川越のアートマップが改めて作成されました。行政機関が作成するとなると、飲食店や雑貨店の情報を併せて掲載することは難しく、結果として美術に関心をもつ方に重きを置いた内容になると思われます。しかし、民間団体が主体となって作成することで、掲載する情報に幅を持たせることができます。結果として、美術に関心があり厚い層にも手に取ってもらえるような、魅力あるアートマップとなりました。また、美術作品を観に来た人が紹介されている飲食店へ、あるいはその逆といった、新たな人の流れを生み出すこともできました。

掲載されている展覧会が終了していることから、今後開かれる展覧会が掲載されたマップを作っしてほしいといった声も聞いています。このアートマップが定着することで、芸術文化への関心を高めることが期待できるため、今後も協働事業として継続していくことが望まれます。

【市民活動団体等】

この協働事業の実施に当たり、市の文化芸術振興課および市立美術館から多大なお力添えをいただき、深く感謝しております。特に市立美術館との間で情報の行き違いがあった際、文化芸術振興課の適切な仲介により事態を円滑に解決することができましたこと、心よりお礼申し上げます。今回の協働事業を通して改めて感じたのは、民間で行われる優れた事業を紹介していくことの大切さでした。市民の行う文化活動を広く紹介することは、ある意味で文化行政の役割と言えます。しかし公共団体はその本旨から、市民の活動を選別したり優先順位を付けたりすることはできません。一方で一般市民にとっては、数ある文化事業の中からどれを選んで見たらよいか判断するのは極めて困難です。そこで今回の協働事業では、専門家を有する民間団体がその部分を受け持つことで、市内で行われる優れた文化事業の情報を、不十分ながらも市民の方々に提供できたのではないかと考えています。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	4名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	5名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

・本事業は民間の眼から見て優れていると判断される美術品の展示会に関する情報を市民に提供するもので有意義です。このような活動は、川越を美術の街に作り上げていくためには大事なことであります。今後、開かれる展示会に関する情報提供も必要と考えます。

・初回にしては良くできた内容でした。DMの発送リストも関係団体等、数も多く大変だったと思います。イベントスケジュールにジャズフェスティバルも掲載して欲しかったと思います。毎年このようなマップが作成されることを望みます。

・飲食店や手作り品を売る店の情報なら年間一回の発行でも良いと思いますが、公立美術館の催事情報は、年間5～6回の発行にしなければ欲しい情報とは言いなくなってしまいます。民間のものと、市が出すものの両立は根本的に無理があるように思えますので、市と離れて行う事業かもしれません。

・継続することで、美術に関心のない層にも興味をもってもらうことが出来ると思います。また、遠方の美術館にDMを発送することで、川越の魅力を発信できたと感じました。

・川越の芸術に携わる人たちや、観光客の活性化になる事業だと思いました。また、多くの団体や企業へのアピールもあり、行政との協働事業に適していると思いました。イベント情報の掲載方法を工夫すると、長期間アートマップの活用ができると思いました。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課	平成26年度
団体名	川越igoまち倶楽部	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	「育てigoキッズ！」事業（子どもに対する囲碁普及事業）	
協働事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●「夏休み囲碁講座」：コープみらいと連携、親子対象の囲碁講座を7月30日に開催した。ルール説明と対局を通じて囲碁の面白さに触れてもらった。 ●「やさしいigo講座」：初心者対象の囲碁講座を11月3日に実施した。プロ棋士による講座やチーム対抗戦などを行った。 ●「igoまちキッズクリスマススペシャル」：子ども囲碁教室の特別企画イベントを12月14日に実施した。プロ棋士による楽しいお話や練習対局、ピアノ演奏やクリスマスソングの合唱などを行った。 ●囲碁マスコットキャラクターの展開：マスコットキャラクターの名前を投票で決定するとともに、名前入りの缶バッジを製作し、子どもたちに配布した。 	
協働事業の決算額	139,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年 7月 1日 ~ 平成26年12月14日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	31 点
------	------



○「夏休み囲碁講座」の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働団体である川越igoまち倶楽部は、自立した事業運営ができていました。児童の参加者数を増やすことで、事業目的の達成に近づくことができたのではないかと感じています。当事業は、文化芸術の振興において課題である、次世代の文化の担い手の育成と世代間の交流の2つの課題に取り組むことができる事業であり、今後も継続して事業を推進していくことが望ましいと考えます。

【市民活動団体等】

子ども囲碁教室については、生徒確保対策が従来からの懸案であったが、担当課とも相談・協議を行い、小学校に直接働きかけることで、9月以降生徒が急増し、当面の課題を解決することができた。これにより「協働」の意義を実家することができた。

今年度の協働事業は、囲碁イベントやマスコットキャラクター展開を通じて囲碁の裾野を広げることを主眼として実施したが、イベント参加者が囲碁に興味を抱き、囲碁教室に申し込むなど、一定の成果をあげることができた。これにより、本団体が目指す「囲碁を通じ、子どもたちの健全な育成をめざす」という目的に少しずつ近づいていると考える。

担当課には、打合せや報告等により、当事業のコンセプトや意義などを十分理解していただいたと考えているので、今後もより緊密に連絡を取り合い、情報を交換しながら、さらに事業を推進していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	2名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	7名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別添により記入

【事業に関するコメント】

- ・事業の目的は理解できますが、囲碁単独での協働の必要性に疑問が残ります。事業目的にプラスにして多文化の共生という形で、他の事業との同日開催なども視野に含めてはいかがでしょうか。
- ・「何故囲碁なのか」と思っていたが、実際に見て運営も非常によく出来ていると感じた。青少年の健全育成、高齢者と子供の共生など、新しい展開がのぞめるものになる可能性があります。
- ・参加した子供たちの熱心さに良い意味で驚きました。学校や自治会、学校区を離れた他校や他地域の同世代の仲間とつどえる場をigoまち倶楽部が提供していると感じました。見学時は、たまたまかも知れませんが、講師のそばの一番黒板が見やすい席を初心者と思われる数名の大人が占めていたのはいかがなものでしょうか。
- ・募集の内容等、去年の課題を改善したものになっており、とても良い事業だと思いました。参加者が増え、楽しんだ感想をえられたことは、スタッフのモチベーションも上がりますね。参加者が増えることで準備等大変になるかもしれませんが、担当課と打合せを行い、さらに良いものになるよう期待しています。
- ・今年度は担当課とも相談、協議を行い小学校に直接働きかけることで、受講生確保に対する進歩があった。イベントに参加した子どもたちに意見を聞く機会があったが、「話が難しすぎて囲碁について本当のところはよくわからなかった！」という意見もあり、囲碁の裾野を広げるにはもう少し努力が必要と感じられました
- ・子どもたちの落ち着きや集中力を養うためにも現代だからこそ必要だと思えます。